

2011年度「日印地域間交流促進プログラム」を実施（報告書概要版）

趣旨・概要

クレアシンガポール事務所では、2012年1月25日（水）から2012年2月4日（土）まで、インド視察ミッション「日印地域間交流促進プログラム」を実施した。

本事業は、日本の地方自治体職員等を海外に派遣し、政府機関・企業等の訪問や市民との交流などを通じて、両国間の政治経済・文化交流等における現状と課題の理解を図り、今後の地域間交流の契機とすることなどを目的として、2007年度から開催している。2011年度は、2010年度に引き続きインドで開催し、ムンバイ、プネー、チェンナイの3都市を訪問した（詳細は下記の日程表を参照）。本稿では、本プログラムの実施概要につき報告する。

高まりを見せる日印交流の機運

2012年は、日本とインド国交60周年にあたる。両国の地域間交流の歴史は深く、1965年のムンバイ（当時のボンベイ）と横浜市との間で締結された姉妹都市提携をはじめ、これまで5組の姉妹都市・友好都市提携が締結されている。近年では、2010年に広島県が、今回訪問したタミール・ナドゥ州政府と経済交流に関する覚書を締結するなど、特に経済分野での交流の機運が高まりを見せている。2011年10月現在で、インドに進出している日系企業は、800社を超え、拠点数でいえば1,400拠点を上回っており、中国との関係と比較するとまだまだ大きな開きがあるものの、両国間の良好かつ安定した政治関係を背景に、今後目覚ましく発展していくことが期待される。

インドの地方自治体などを訪問

今回のプログラムでは、インドの政治・経済に関する最新の動向の把握に加えて、プネー市役所を訪問し、なかなか触れる機会の少ないインドの地方自治体の行政システムに関するブリーフィングや、公立小学校や下水処理場など行政施設を視察する機会を得られた。

日系企業が今最も注目し、集積しているタミール・ナドゥ州・チェンナイでは、インドビジネスの最先端で活躍する方々の生の声を聞き、インドで成功するための秘訣の一端を伺い知ることができた。

また、国家の経済成長を牽引するインドのIT業界において、世界有数の大企業へと成長した“インフォシステクノロジーズ”を訪問し、インドの最先端の企業環境と世界において飛躍的にプレゼンスを高める、インドのダイナミズムを体感した。

日程表【海外研修】

月日	都市名	時間	日程
1/29 (日)	ムンバイ	終日	文化施設・日本食店等視察
		夜	海外オリエンテーション
1/30 (月)	ムンバイ	午前	在ムンバイ日本国総領事館
		午後	オールインド自治体協会
1/31 (火)	プネー	午前	プネー岡山友好公園視察 プネー市役所
		午後	プネー市行政施設視察
		夜	意見交換会（日印友好協会）
2/1 (水)	プネー	終日	プネー大学学生との文化交流事業
2/2 (木)	チェンナイ	午前	JETRO チェンナイ事務所 タミール・ナドゥ州政府
		午後	BBL DAIDO PRIVATE LTD (BBL 大同メタル社)
		夜	意見交換会（日系機関）
2/3 (金)	チェンナイ	午前	AJINOMOTO INDIA PRIVATE LTD (味の素 INDIA 社)
		午後	インフォシステクノロジーズ
		夜	解団式・帰国

※1月25日（水）～1月27日（金）は、全国市町村国際文化研修所で、インドの基礎知識の習得を目的とした国内研修を実施

※1月28日（土）、2月4日（土）は移動日

● 親日的な人材の宝庫

この他、人的交流・文化交流の促進を目的に、日本語教育が盛んなプネーで学生たちとの文化交流事業を開催した。両国の参加者がそれぞれ自国の文化や習慣などをテーマにプレゼンテーションや意見交換を行い、両国の将来の懸け橋となる、親日的な若く意欲に溢れる人材と接する機会に恵まれた。

● プログラムの様子



■ プネー市役所表敬訪問



■ プネー・岡山友好公園視察



■ プネー市下水処理場視察



■ プネー市公立小学校視察



■ インドの若者との交流事業（プネー）



■ 日本語でのプレゼンテーション（プネー）



■交流事業昼食会（プネー）



■交流事業にて（プネー）



■タミール・ナドゥ州政府訪問（チェンナイ）



■工業団地視察（チェンナイ）



■日系企業ブリーフィング（チェンナイ）



■インフォシステクノロジーズ（チェンナイ）



■オールインディア自治体協会訪問（ムンバイ）



■インド初の持帰り寿司店（ムンバイ）